

井川町教育委員会 9月定例会会議録

1. 日 時 平成30年9月25日(月) 午後2時00分～3時10分

2. 場 所 井川町公民館 研修室

3. 出席委員

六郷博志 幡宮明貞 齋藤正仁 伊藤守 小武海文恵

4. 会議に出席した事務局職員

事務局長 伊藤一彦 事務局学務班主査 鷺谷幸平

5. 報告事項

- ①井川町教育委員の任命について
- ②開校記念行事について
- ③学校応援協議会準備委員会について
- ④健康副読本の発行について
- ⑤教育委員会、公民館、学校関係行事予定について
- ⑥各種大会等の結果について

6. 協議事項

- ①町教育委員会点検・評価報告書(案)について
- ②給食調理場視察総括について
- ③その他

7. 情報交換

8. 会議の経過

教育長 開会あいさつ
(挨拶要旨)

いくつか私からお話ししたい。1つ目は、ふるさと学習についてだ。先週の土曜日に民俗芸能交流事業があり、義務教育学校の体育館にて、県の文化財保護室が主催の今戸の願人踊の披露があった。子どもたちと保護者合わせて160～170の方が観賞し、非常に良い演技であった。学校としても、文化財・芸能の保護をふるさと学習として、考えていかなければならない。

2つ目は、健康副読本についてだ。昨年、町が循環器検診の55周年ということで式典を行った折に、子どもにも健康促進を図りたいということで、健康副読本の作成を大阪大学の先生方と協力しながら進めている。健康だけではなく、町が長らく取り組んできたことを子どもたちが学ぶということは、大変意義のあることかと思う。願人踊りも健康副読本も、町のことをしっかりと子どもたちに伝えるような学習をする方向で進めていきたい。

3つ目は、全国学力学習状況調査についてだ。前回の教育委員会

にて、全国学力学習状況調査の結果を広報に掲載することについて御意見をいただいたが、先月発行した学校報で、テストの内容を全戸配布で通知していた。昨年から、小学校も中学校も全戸配布で学校報を発行しており、テストについては昨年同様、子ども・保護者のみならず、広く町民に通知してきた。課題について、子どもだけではなく、保護者や地域の方々の理解や協力が必要な場面もある。全員で子どもたちのことを理解してほしいという趣旨で、今後もこの形で進めていきたい。

- 教育長 今定例会の議事録署名員に齋藤委員、伊藤委員を提案する。
(全員提案を了承)
それでは、報告事項に移る。
はじめに、井川町教育委員の任命について説明を求める。
- 事務局長 (井川町教育委員の任命について説明)
教育長 教育長の職務代理者を幡宮委員にお願いしてきたが、引き続きお願いするというので、異議はないか。
- 全員 (全員了承)
教育長 (次に、開校記念行事、学校応援協議会準備委員会、健康副読本の発行について説明)
- 教育長 次に、教育委員会、公民館、学校関係行事予定について説明を求める。
- 事務局長 (教育委員会、公民館、学校関係行事予定について説明)
教育長 次に、各種大会等の結果について、説明を求める。
事務局長 (男鹿潟上南秋秋季体育大会の結果について説明)
教育長 続いて、協議事項に移る。
(町教育委員会点検・評価報告書(案)について説明)
- 委員 「教育委員会における事務の管理・執行状況」について、事業名の項目はどのような基準で挙げたのか。
- 教育長 施設整備やソフトな部分など、そのような区分で分けたほうがわかりやすいかと思い、このような形にした。
本来であれば、事業名毎に分けるべきではあるが、項目として立てづらいので、このような形が一番わかりやすいかと思う。
- 委員 やったことを並べているのではないか、といった批判的な見方が出てくるのではないか。たとえば「平成30年度井川町の教育・社会教育」に具体的な取り組みが挙げられているので、そういった項目について評価項目を立て、計画に対して評価をしていけば、説明がしやすいのではないか。
- 教育長 本来であれば、大きな目標があり、それに対して小さい目標があ

り、それについて具体的な取り組みがあるべきだが「平成30年度井川町の教育・社会教育」に沿って評価項目を立てることができない記述の仕方になっている。

教育委員会の評価として成立させるために、来年以降、もう一度目標設定から組み直して、評価してもらうように変える必要がある。県の場合は、委員の指摘の通り、上から順番に評価項目が設定されているが、町や村の多くは、原案の形をとっている。なぜなら、項目に沿って事業を起こすことができない現状があるからだ。

事務局長 執行状況の評価するという段階では、予算がない事業は評価項目に挙がってこないの、当初予算で挙げた事業が実際に執行されて、その効果や成果があったのかという評価しかできない。

委員 予算がついたからできる、予算がついたからできない、といった視点で評価するというのは納得しかねる。

教育長 教育委員会の仕事の中身を整備する目的もあった。今まではこういった整理がなかったので、まずはそこからスタートしたい。

委員 評価については委員の指摘の通りではあるが、教育長が言うように大変難しいこともよくわかる。また、教育委員の仕事と責任の範囲が明確になった。そういった点では、このように項目を立てることによって整備されたと思う。細かすぎるのではないかとは思ったが、こういった形でやってみるしかない。

ただ、自分が評価するとなると、一度も事業を見たことがないので評価のしようがなく、自分の中の基準が明確でないという問題がある。

委員 教育委員会で学校にかかわっていることについて、取り組みを挙げていって、子どもの教育にプラスになったのかどうかを見るのが良いのではないか。また、予算を付けたことについて評価をするというのも良いが、予算を付けたこと以外に、教育委員会としてやっていくことはないのか評価しながら、評価項目を加えたり削ったりしてはどうか。

委員 事業について、全部が全部到底わからないので、話を聞きながら理解しながらでないといけないと手を付けられない。

委員 項目はもう少し整理できないか。その方が評価する方としてはやりやすい。

教育長 次回まで整理しなおして提案したい。

次に、給食調理場視察総括も含めて、食育全般について意見をお願いしたい。

委員 調理員の方々がプロで無駄な動きがなく、一人ひとりが徹底してお

り、すごい。

委員

調理室は学校から見れば密室であり、調理員の仕事が見えないが、重労働で大変な仕事だ。調理員を認める場がとても大切だ。場長が用事を作って見てあげることが大切で、栄養士も含めて教育長も来た時に声をかけるなど、やっているところを見てあげる、認めてあげるといことが、働き甲斐にも繋がる。

また、常に食中毒等への配慮が絶対に必要だ。県等から通知が来た時には、栄養士に任せないで、必ず場長が直接行って話すことが大切だ。

教育長

新しい井川町らしいメニューの開発に期待したい。井川の特産品を活かしたここだけの給食を開発してもらいたい。

教育長

給食費の無償化が議会でも取り上げられているが、教育の分野ではなく、子育ての分野で取り上げられている。県内では八郎潟町と東成瀬村で無償化が進んでいる。

委員

教育や福祉に関しては、一度無償化になると元に戻すのは大変だ。

教育長

次に、その他について説明を求める。

事務局長

(平成30年度市町村教育委員会連合会及び協議会の合同研修会について説明)

教育長

以上で、協議事項を終了する。

事務局長

(他に無いことを確認して定例会を終了)